

REI MEI

vol.42
No.2

Kagoshima Prefectural Museum of Culture Reimeikan

鹿児島県歴史・美術センター黎明館だより「黎明」

Contents

特集

企画特別展

没後100年

松方正義—郷士から総理大臣へ—

企画展

南九州の山と生きる人々

Anniversary Year! 今年は〇〇周年!

黒田清輝 没後100年

和田英作 生誕150年

学芸員EYES! 第10回

鹿児島県写真帖

黎明館のフカボリ⑬

敷地散策のススメ 行幸記念碑

特集

企画特別展

没後100年 松方正義

—郷士から総理大臣へ—



松方正義写真 明治35(1902)年(個人蔵 黎明館保管) / 上野彦馬撮影松方正義写真(個人蔵 黎明館保管)

没後100年

松方正義

MATSUKATA MASAYOSHI

— 郷土から総理大臣へ —



銀製頌功表塔
(個人蔵 黎明館保管)



松方正義写真 明治35(1902)年 (個人蔵 黎明館保管)

会期 令和6年 9/26(木) - 11/4(月)

会場 黎明館2階 第2特別展示室

慶応4(明治元(1868))年、260年余り続いた江戸幕府が倒れ、新しい政府が産声を上げました。しかし、欧米列強が虎視眈々と狙うなか、ヨチヨチしている時間はありません。日本は「殖産興業」・「富国強兵」を掲げ、強力な国づくりを急ぎました。

松方正義(1835-1924)は、その頃長く大蔵卿・大蔵大臣として国家の屋台骨を支えた人物で、総理大臣も2度務めました。鹿児島城下のはずれ下荒田に生まれ、出自による偏見や親戚の負債による貧困などを乗り越えて、総理大臣まで昇りつめた松方の生涯に迫ります。

開館時間 9:00 ~ 18:00(入館は17:30まで)初日は10:00開場

休館日 9/30、10/7、10/15、10/21、10/25、10/28

観覧料 一般 800円(600円) 大学生 500円(350円) 高校生以下無料

※ ()内は団体【20名以上】、前売券料金

※ 障害者手帳の提示で観覧料免除(介護者1名免除)

主催 令和6年度黎明館企画特別展実行委員会(鹿児島県歴史・美術センター黎明館、南日本新聞社、MBC南日本放送)

後援 日本銀行鹿児島支店、鹿児島県教育委員会、鹿児島市教育委員会、NHK鹿児島放送局、KTS鹿児島テレビ、KKB鹿児島放送、μFMエフエム鹿児島、鹿児島シティエフエム

プロローグ

谷山郷土から城下士へ

谷山郷土であった父が城下士松方家を相続したことから全てが始まります。

第1章

薩摩藩士時代

両親が若くして他界し、少年時代は貧困に苦しみました。しかし、島津久光の抜擢により扉が開き、重要な使者を任されるなど、激動の幕末を駆け抜けます。



松方正義陣羽織(個人蔵 黎明館保管)

第2章

地方官僚から中央官僚へ

維新を長崎で迎えた松方は、日田(現・大分県の一部)県知事として手腕を発揮し、大久保利通の抜擢により、新政府で地租改正を担当します。

身寄りのない
子どもたちの
未来のために
『養育館』を設立。

上野彦馬撮影松方正義写真
(個人蔵 黎明館保管)



養育館の絵と沿革(額装)
(咸宜園教育センター蔵)

第3章

松方財政

大蔵卿・大蔵大臣となった松方は、紙幣整理・日本銀行の創設・金本位制の確立等、近代日本財政の基礎を築きます。この間2度にわたり総理大臣も務めました。



日本銀行兌換銀券 1円券 明治18(1885)年

トピック

那須野が原の開拓と松方

那須野が原(栃木県)には華族資本により開拓された大農場が点在していました。その中で松方の千本松農場は主導的役割を果たしました。



銀製花盛器(個人蔵 那須野が原博物館保管)

第4章

元老・内大臣時代

第一線を退いた松方は、最重要国策の決定に際し天皇を補佐する元老、又は天皇に常侍輔弼する内大臣として明治・大正両天皇、皇太子裕仁親王(昭和天皇)に仕え、大正13(1924)年、90歳で世を去りました。



松鶴遐齡集・徳川慶喜華瑞気集門/橋本雅邦華朝陽松鶴図(個人蔵 黎明館保管)

第5章

故郷鹿児島への貢献

松方は、旧主島津家や鹿児島のことを終生大切に考え、様々な形で支えました。

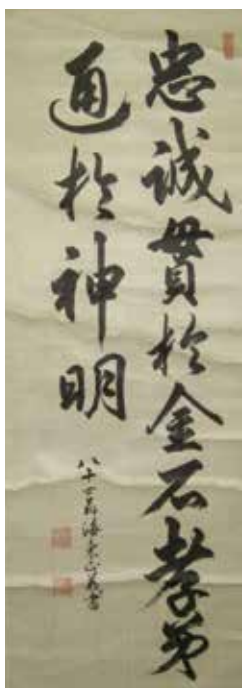
エピソード

松方とその家族

子どもたちが小さい頃の家庭人松方の手紙や、読めれば笑顔になる三男幸次郎の手紙を紹介します。



松方幸次郎書簡(個人蔵 国立国会図書館憲政資料室保管)



松方正義筆二行書 (玉里島津家資料)

関連イベント

聴講無料
要事前申込

記念講演会①

日時 令和6年10月5日(土)

13:30 ~ 15:00

会場 黎明館2階 講堂

講師 立教大学文学部特任准教授

寺尾 美保 氏

演題 「松方正義—近代島津家と鹿児島の変革者—」

【申込期間:8月1日(☎)~9月11日(☎)(消印有効)】

展示解説講座

日時 令和6年10月12日(土)

13:30 ~ 15:00

会場 黎明館2階 講堂

講師 黎明館主任学芸専門員兼学芸調査係長

崎山 健文

演題 「松方正義—郷土から総理大臣へ—」

【申込期間:8月1日(☎)~9月11日(☎)(消印有効)】

記念講演会②

日時 令和6年10月19日(土)

13:30 ~ 15:00

会場 黎明館2階 講堂

講師 青山学院大学経済学部教授

落合 功 氏

演題 「政治家の矜持—松方財政、経験・学び・実行」

【申込期間:8月1日(☎)~9月20日(☎)(消印有効)】

記念講演会③

日時 令和6年10月26日(土)

13:30 ~ 15:00

会場 黎明館2階 講堂

講師 元那須野が原博物館館長

金井 忠夫 氏

演題 「松方正義と那須野が原開拓」

【申込期間:8月1日(☎)~9月20日(☎)(消印有効)】

申込方法 電子申請または往復はがき

詳細は黎明館のホームページをご覧ください。

電子申請は
こちら



ホームページは
こちら



山と生きる人々

南九州の

令和6年9月10日(火) - 12月1日(日)
黎明館3階 企画展示室

背丈ほどの大きな鋸のこぎりを持って、山に向かう木挽夫こびきふたち。身を潜めて、獲物が来るのをじっと待つ狩猟者たち。山が多く、森林に恵まれた南九州の人々は、山からの豊かな恵みを求め、知恵や工夫ひそを凝らしながら自然と付き合ってきました。その一方で、山は異界であり恐ろしい神が住むと言われ、人々は山の神に仕事の無事と恩恵を祈り、大切にまつ祀ってきました。この展覧会では、山での生業に使われた民具、山の神への畏敬いけいと感謝を表す行事や信仰から、山と人々が育んできたつながりを紹介します。

Chapter 1 木の恵みを受ける

山を舞台にくり広げられた生業は、木挽き、炭焼、樟脳取りなどの採集、焼畑など多岐にわたります。豊かな木々からの恵みを、人々はどのように享受して、どのように活用していったのでしょうか。山仕事の中で使われた民具からひも解きます。大きな木々に対峙した人々が生み出した、大きな大きな鋸にも注目です。



ワキノコ

切り倒した木を製材するときに用いる。木挽夫が使うため、「コビキノコ」とも呼ばれる。

ヨキ

木を伐採するときに使う。

ハツリヨキ

大木の側面を削り落とすときに使う。形がイチヨウの葉に似ていることから、「イチヨウバ」とも呼ばれる。



弁当箱

山仕事の道具と一緒に持って行った弁当箱。「木挽きの一升飯」という言葉があり、たくさん食べないと務まらない仕事であった。

ヨウバ(カイリョウバ)

刃の部分の深くびれが、オガクズを運び出す役目を果たしており、刃の通りが良い。

Chapter 2 生き物の恵みを受ける

豊かな山には多くの動物たち、山が生み出す川には多くの魚たちが棲みついていて、これらの生き物を狙う狩猟者、漁師たちはそれぞれの生き物の特性や行動をよく観察し、知り尽くしていました。獲物を捕らえんとする人々と、逃れようとする生き物たちの知恵比べです。



シカノヨビブエ (複製)

鹿の鳴き声に似せた音の鳴る笛で、
猟で獲物をおびき出すときに使う。



弾作りの道具

猟で使う弾を作る道具。ジッダンという大きな弾と、オトシダマという小さな弾の2種類を作っていた。



村田散弾銃

猟銃として、主に昭和初期まで使用されていた。

Chapter 3 山の神に祈る

山の神は、山を活動の場とする人々の間で大切に信仰されており、鹿児島では「ヤマンカン」とも呼ばれます。人々は、山からの恵みを神に祈り、そして感謝してきました。その信仰の一端を、鹿児島県内の山の神祭や、信仰の場で用いられる民具、山の神の由来を記した文書などから紹介します。



山之神御本地 (個人蔵 黎明館保管)

山の神信仰や狩猟を行う際の山での様々な作法が記され、代々伝えられてきた。



池田の柴祭り

はたやま
錦江町の旗山神社で、正月に行われる神事。この中で、神職が狩猟の模擬行為をする「狩初め」の儀式が行われる。

関連イベント

学芸講座 (展示解説講座)
「南九州の山と生きる人々」

日時: 11月16日(土) 13:30 ~ 15:00
会場: 黎明館3階 講座室
講師: 黎明館学芸課主査 古殿 志賀子
事前申込制 (電子申請または往復はがき)
応募期間: 10月17日(木) ~ 10月31日(木)
(消印有効)

講座後に展示解説を行います。

展示解説

日時: 9月29日(日)、10月13日(日)、
11月30日(土)
13:30 ~ 14:10
11月16日(土)
15:10 ~ 15:50 (学芸講座終了後)

会場: 黎明館3階 企画展示室
要入館料、事前申込不要

各分野から、今年度周年を迎える出来事をピックアップし、関連する資料をご紹介します。

日本近代洋画の父 黒田清輝が亡くなって(大正13(1924)年)から

今年、日本を代表する画家黒田清輝が亡くなって100年です。黒田清輝(1866-1924)は、鹿児島藩士黒田清兼の子として、鹿児島市東千石町に生まれました。9年間のフランス留学を終えて帰国すると、これまで日本では見ることもなかった明るい外光的表現の作品を発表し、日本画壇を驚かせました。その後も《湖畔》等の多くの傑作を発表し、東京美術学校(現・東京藝術大学)で後進の育成に努めるなど、その功績は大きく、「日本近代洋画の父」と呼ばれました。

100年

当館所蔵の黒田作品を紹介します



砂浜乾魚

《砂浜乾魚》は、帰国後間もなく、千葉県日在村(現・いすみ市)で海岸風景を描いています。日本の風土を活かした作品を描こうとしているように感じられます。

《山かげの雪》は、雪の白さの中にある足跡に紫の色を落とし、優美でお洒落な色使いの作品です。



山かげの雪



赤き衣を着たる女

また、当館での黒田を代表する作品が《赤き衣を着たる女》です。黒田の熟練した腕前で、モデルを立てて描き始めると、2日ほどの短時間で描き上げられたのです。一気に呵成に描かれたでしょう。日本人らしい女性を描きたかったということですが、黒田の作品の中で横向きの人物作品は珍しく、イタリアルネサンスの作品を参考にしたのではとされています。

Special Exhibition

この夏、黒田清輝没後100年を記念して、鹿児島市立美術館で大規模な展覧会が開催されます。同時に、県内の黒田清輝作品を所蔵する4館(岩崎美術館、松下美術館、長島美術館、鹿児島県歴史・美術センター黎明館)が連携し、それぞれが所蔵している黒田作品をそれぞれの館で展示し、黒田清輝を顕彰する展覧会を開催します。黒田の生まれた鹿児島を旅するように、美術館を回っていただき、各地の作品をお楽しみください。



美術・工芸

日本洋画壇の中心的存在 和田英作が誕生して(明治7(1874)年)

昨年所蔵した和田作品を紹介します



三保の富士

今年、和田英作が誕生して150年です。和田英作(1874-1959)は、鹿児島県垂水市に生まれました。黒田清輝に学び、東京美術学校教授、そして校長を務めるなど、日本洋画壇の中心的存在で、特に秀麗な富士山やバラを好んで描きました。

150年

《三保の富士》は、和田が晩年居住した三保から見える富士を描いていますが、この作品が描かれたのは、まだ38歳のころ。落ち着きのある色合いは、ベテランの域に達しているよう。また傾斜の画面構成と影のバランスは絶妙で、強い夕日を浴びた富士と強い影の力加減は、光と色を愉しんでいるようで、外光派と呼ばれた黒田の指導を受けた影響が表れているようです。



バラ

《バラ》は、花瓶の置かれているテーブルを広く見せることで空間の大きさを感じさせ、その中に光を浴びた花が放つ色はそれぞれに異なり、話しかけてくるようです。

美術・工芸

学芸員イチオシの
 収蔵資料を紹介します。

明治時代の鹿児島の様子を写した写真集

明治40(1907)年に制作された写真帖です。同様のものが宮内省(現・宮内庁)に納められており、明治天皇に鹿児島県内名勝や産業の様子を紹介したと考えられます。名勝では、城山から鹿児島市内を写したページがあります。城山が鹿児島城として見られていた場所から、明治時代後期になると鹿児島市内や桜島の風景を見る場所へと変化したと考えられます。



鹿児島県写真帖(玉里島津家資料)

下の資料は明治40年の鹿児島授産場で生糸を生産している様子を写した写真です。当時の鹿児島の製糸業の様子が分かります。鹿児島授産場は、士族の授産事業として、県令の岩村通俊が政府の資金を導入して、明治13(1880)年、旧米蔵跡(現在の鹿児島市役所構内)に設立したものです。初めは各種の事業が行われていましたが、同17(1884)年には薩摩絨織と巻煙草に限られました。



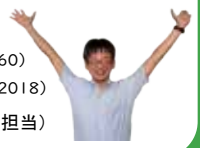
授産場製煙草箱(玉里島津家資料)



上の資料は授産場で製造されていた煙草の箱です。明治23(1890)年、官営事業の民間払い下げにより、授産場は「鹿児島県共同授産会社」となり、織物・煙草・蚕糸の3部門で操業します。さらに、同34(1901)年に「社団法人鹿児島授産社」と改称し、織物業に専念するため鹿児島市下荒田町に社屋を移し、織物を生産していました。

参考文献
 地方史研究協議会編『日本産業史大系 九州地方篇』(東京大学出版会、1960)
 白石烈「明治・大正両時代御手許写真の来歴」(宮内庁『書陵部紀要』第60号、2018)

主査 坂口洋幸(歴史担当)



黎明館のフカホリ 13

敷地散策のススメ

行幸記念碑 (ぎょうこうきねんひ)



黎明館の堀に面した石垣沿いに立っている行幸記念碑は、明治5(1872)年、明治天皇が西郷隆盛らの案内で鹿児島に行幸したことを記念して、同45(1912)年に建立されました。石碑の建立時、黎明館の敷地には第七高等学校造士館がありました。

高さは台座を含めて約5mもあり、正面には「行幸記念碑」と刻まれています。この題字は松方正義の書を刻んだものです。

台座は四面の中央が方形に掘りくぼめられており、それぞれの面に碑文が刻まれています。内容は、明治天皇が東京を出発して鹿児島に着くまでの経緯や可愛・高屋・吾平の三山陵を遙拝したこと、学校等の訪問、建碑の趣旨が刻まれています。

碑文の撰文は、薩摩藩出身の漢学者で内閣書記官長、貴族院議員を務めた小牧昌業。書は、鹿児島出身の日本画家で鹿児島県立第一高等女学校(現・鶴丸高等学校)教諭を務めた小松文雄(甲川)によるものです。



こんなところに
 松方正義

会期：令和6年12月10日(火)～令和7年3月2日(日)

会場：黎明館3階 企画展示室

鹿児島の風景はどのように描かれてきたのかをテーマに、風景に向けられたまなざしと表現の移り変わり、その中で発見された鹿児島の名勝を、絵画や工芸品、鹿児島ゆかりの名所絵や図会、近代以降に描かれた風景画などを通して紹介します。



錦手鹿児島八景図大皿

展示室貸会場イベントスケジュール(8月～10月)

黎明館開館時間(9:00～18:00)

期間	時間	イベント	会場	観覧料	主催者お問い合わせ先(敬称略)	備考
7/13(土)～8/25(日)	9:00～18:00 (入場は17:30まで)	THE仮面ライダー展	第2 第3	有料	KKB鹿児島放送 050(3816)5111	初日9:00開場 最終日18:00閉場
7/19(金)～9/1(日)	9:00～18:00 (入場は17:30まで)	イマーシブ体感! 動き出す浮世絵展KAGOSHIMA	第1	有料	MBC南日本放送事業部 099(254)7112	初日10:00開場 最終日18:00閉場
8/28(水)～9/1(日)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	第23回 鹿児島二紀展	第3	無料	二紀会鹿児島支部 桶田洋明 099(285)7882	初日14:00開場 最終日16:00閉場
8/29(木)～9/1(日)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	第75回 鹿児島県図画作品展	第2	無料	鹿児島県 教育庁義務教育課 099(286)5298	初日9:00開場 最終日15:00閉場
9/11(水)～9/15(日)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	第33回 シルバー文化作品展	第2 第3	無料	社会福祉法人鹿児島県社会福祉 協議会・長寿社会推進部・ホラン ティアセンター 099(250)7441	初日9:00開場 最終日14:00閉場
9/12(木)～9/15(日)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	第61回 南日本硬筆展	第1	無料	南日本書道会 099(223)5226	初日9:00開場 最終日18:00閉場
9/20(金)～9/22(日)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	みさわパッチワークキルト スクエアBee's 作品展	第3	無料	みさわパッチワーク キルトスクエア Bee's 080(6457)3013	初日9:00開場 最終日16:00閉場
9/21(土)～9/29(日)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	第37回 MBCサムホール美術展	第1	有料	MBCサムホール 美術展事務局 099(254)7112	初日10:00開場 最終日18:00閉場
10/1(火)～10/6(日)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	第50回 サン・ジャック 女流彫塑展	第3	無料	サン・ジャック女流 彫塑展事務局 090(9405)3539	初日10:00開場 最終日18:00閉場
10/4(金)～10/9(水)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	日本水彩鹿児島展	第1	無料	公益社団法人 日本水彩画会 03(5828)1616	初日9:00開場 最終日15:00閉場
10/11(金)～10/13(日)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	仏像彫刻 義村幸 鹿児島一門展	第3	無料	義村幸 090(8502)2055	初日9:00開場 最終日15:00閉場
10/12(土)～10/14(月)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	第43回 大東文化大学 鹿児島県人書道展	第1	無料	大東文化大学 鹿児島県人書道会 080(3906)2177	初日9:00開場 最終日16:00閉場
10/16(水)～10/20(日)	9:00～18:00 (入場は17:30まで)	毎日書道展第75回記念 毎日現代書巡回展 鹿児島展	第1	無料	毎日新聞 西部本社事業部 093(511)1119	初日9:00開場 最終日15:00閉場
10/18(金)～10/20(日)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	MOA美術館鹿児島県児童作品展	第3	無料	MOA美術館鹿児島 児童作品展実行委員会 090(7659)5393	初日9:00開場 最終日16:00閉場
10/22(火)～10/27(日)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	日本風景写真協会 鹿児島支部写真展	第3	無料	日本風景写真協会 鹿児島支部 有馬純彦 090(3986)9539	初日9:00開場 最終日16:00閉場
10/29(火)～11/4(月)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	第48回 鹿児島合同写真展	第1	無料	鹿児島県写真協会 村上光明 099(203)0099	初日9:00開場 最終日16:00閉場
10/29(火)～11/4(月)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	鹿児島フォトサロン写真展	第3	無料	鹿児島フォトサロン 0996(25)0018	初日9:00開場 最終日16:00閉場

編集
後記

令和6年度より、たより編集チームに新たなメンバーが加わりました。
編集チーム4名を中心に、より楽しい誌面をお届けできるよう頑張っていきたいと思ひます。(中村)

編集・デザイン 田平晶子 中村友美

Information

※ 展示や催し物等の予定は変更になる場合がありますので、ホームページまたはSNS(Facebook・X・Instagram)にてご確認ください。



開館時間 9:00～18:00(入館は17:30まで)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)、毎月25日(土・日・祝日の場合は開館)、12月31日～1月2日、そのほか館が定める日

観覧料 一般420円 高・大学生260円 小・中学生160円

〈年間パスポート〉

一般840円 高・大学生520円 小・中学生320円

※障害者手帳の提示で無料 ※団体(20名以上)割引あり。※鹿児島県内に居住する70歳以上無料(令和6年度まで) ※鹿児島県内に居住する18歳以下は、土日祝日は無料(令和6年度まで)

アクセス 鹿児島空港から鹿児島市内行きバス「市役所前」下車、徒歩7分
JR「鹿児島駅」から徒歩15分
JR「鹿児島中央駅」から市電・バス利用
市電・バス「市役所前」または「水族館口」下車、徒歩7分
鹿児島市内巡回観光バス「薩摩義士碑前」下車すぐ
無料駐車場あり(普通車125台 バス20台)

Follow us!

ホームページ、SNSで黎明館情報を発信しています。フォローして、ぜひチェックしてみてください。



Homepage



Facebook @reimeikan



X @official_reimei



Instagram @official_reimei